



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第94号

発行日
令和5年12月1日

◇ 目 次 ◇

P-2 : 自然公園クリーンデー清掃作業

P-3 : 入浜池定点観察 ①・維持管理作業①

P-7 : PV会員交流会

P-9 : 和木町放課後子ども教室

「わきあいキッズ」

P-11: 紅葉谷公園補修・清掃作業

P-13: スカイ歩道整備・清掃作業

P-15: 投稿

・廿日市環境フェスタ2023

大高下 AR 講演

・公開講座

「ミクロの世界からみた宮島」聴講記

・俳句

P-16: 編集後記

「 会員交流会 庄原クジラ博物館 」



中国山地に囲まれた広島県庄原市に『水族館』？

迎えてくれたのは、近くの西城川の1600万年前の地層から掘り出された化石から復元されたクジラたちです。交流研修会で訪れた「庄原市立比和自然科学博物館」は、地球の悠久の歴史と中国山地の自然と文化を学べる穏やかな空間でした。

(文：横路晃 撮影：河野進)

自然公園クリーンデー

日時：9月9日(土) 9:00~10:40

天候：晴れ

行事推進委員：種本 長村

参加者：麻生 猪谷 岩崎 恩田 河野

小林(勗) 末原 種本 中道 穂井田

増田 舛田 村上(慎) 森 横路 吉賀

以上 16 名

環境省：山脇自然保護官 内山自然保護官

環境省と廿日市市の主催で行われた「自然公園クリーンデー」に参加してきました。この活動はコロナ禍の影響で4年ぶりの開催となったということで、私は初めての参加でしたが、環境省の山脇自然保護官、内山自然保護官、当会会員16名、廿日市市役所のかた、宮島を美しくする会のかた併せて約35名の参加しました。

まず、山脇自然保護官、廿日市市宮島支所長の挨拶の後、①有之浦海岸、②小なきり海岸、③栈橋～シーサイドホテル、④栈橋～うぐいす歩道の4つの班に分かれ、それぞれの担当場所にて清掃活動を行いました。私は小なきり海岸の担当となりましたが、白い砂浜からの照り返しは強く、途中水分補給休憩を取りながらの作業でした。連日良い天気が続いていたからか海岸に流れ着いたゴミの量は思っていたよりも少なく、予定より少し早い終了となり、集合場所まで道路のり面や道端のゴミを拾いながら戻ることとなりました。5月に開催された広島サミット前に宮島でも色々な清掃活動が行われたようですから、あれから数か月しか経っていないのにもうこれだけのゴミが...と考えさせられました。大変暑い中での清掃作業でしたので、何はともあれ全員無事に作業を終えることができよかったです。



山脇自然保護官挨拶



小なきり海岸清掃作業



小なきり海岸清掃作業



(文：種本 写真：河野)

入浜池定点観察 ①

・維持管理作業 ①

日時：9月16日(土) 9:00～13:00

天候：くもり

行事推進員

・観察：大西 小川 小林(み) 穂井田
松田 元広 横路

・環境整備：上杉(裕) 恩田

参加者：岩崎 上杉(裕) 上杉(幸) 大西 大林

小川 河野 小林(颯) 二神 穂井田

村上(慎) 元広 森 山本(昌) 横路

以上 15 名



【環境整備】 上杉(裕)

当日は大潮（満潮は 10:23）で、潮位は 360cm、入浜池への海水の流入が認められました。ゴミは海岸だけではなく、水路内にも溜まっていました。

海岸のゴミはカキ筏の破片等漂着したものだけでなく、キャンプ客が捨てたと思われるレトルト食品等のパッケージ（未開封のものもありました）や、使い残した薪や炭がありました。約 2 時間半の作業で収集袋 5 つ分のゴミと 3 個のフロート原形に近い大きさの発泡スチロール塊を回収しました。

【水質調査】横路 晃

調査班：小林（颯）横路

池の水位がやや回復していましたが、測定点の山側での「中央点」で水位が標識杭まで達しておらず、杭の位置での水の採取が出来ませんでした。杭から約 2～3m の地点で採水しました。付近はやや湿っていて柔らかくシカやイノシシの足跡も少ないようでした。今日までの近い時点での海水の流入／流出が有ったと思われます。今日の測定時間が満潮の時間と重なり、E 点・F 点の測定中に海水の流入が始まりました。

測定結果は次の表の通りです。

測定	満潮 (10時52分)			干潮 (16時30分)			
	潮位 358cm			潮位 57cm			
調査時刻	9:40	10:40	9:50	10:00	10:20	10:30	10:50
測定地点	A	B	中央付近 (2m) C'	D (付近)	E	F	海水
杭. 水位 (cm)	-14	-11	*		-16	-13	*
水深 (cm)	3	10.5	2	2	3	22	*
塩分濃度 (%)	1.83	1.78	1.89	0.87	2.29	2.68	2.83
P H	6.5	6.5	6	5.5	6.5	7	6.5
COD	7	6	8 以上	7	3	3	3
池水の状況	※中央点、D点で水位が標準杭に達していない為、杭から2~3mの地点で測定水を採取した。 ※(F地点) 流/出入の水流なし			山水の 流量	7ℓのバケツが満水になる時間 => 7秒		

・PHについては、

各地点でやや酸性の値となっています。

『塩分濃度』について

A・B・中央付近・D付近の測定値は高めで、前回の海水の流入時の残留分が有ると考えられます。E・F地点は今日の測定中に海水が流入しているのが確認され、海水の濃度に近い値となっています。

今年の夏季の8月~9月の降水量が平年より少なくなっています。湧水も少なくなっていると思われます。

・CODについては、

6~8で汚れは少ないようです。E・F点は3で海水の流入中の影響と思われます。

『杭の水位』について

山側の地点で水位が杭まで達していませんでした。今夏の8~9月の降水量が少なく、山水の流量も少なくなっており、池の底からの湧水が少ないと思われます。また、海への排水路の開口面に土砂が堆積していない為、大潮の時の満潮時に海水の流入する回数が多くなっています。



《参考資料》

広島県大竹市における降水量(mm)

(気象庁のホームページによる)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2021	52	69.5	140.5	117.5	246.5	179.5
2022	17	19	143.5	141	44.5	115
2023	63.5	55	74.5	254	237	299.5

年	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021	176	518	287	8.5	93.5	30.5
2022	163	180	380	18	45	24.5
2023	333	98.5	59			

【植物観察】

山本 昌生

2023年4月1日に入浜池の2か所にシカよけネットを設置しました(ネットA、ネットB)。そのネット内のヒトモトススキの生育調査を6月24日及び9月16日に行いました。シカよけネットA内に移植した苗(みせん90号で紹介した花茎に生じた高芽を育てた苗)は4月1日に植えた後、水位が上昇し水没したためか、6月24日でも9月16日の調査でも枯れたようでした(写真1)。

しかし、親株の周りを囲ったネットB内の実生苗は順調に生育していました(写真2、3)。このネットBの場所はみせん89号で紹介した実生の生育調査のために設定した調査区5を含む場所です。ネットを設置していないときは2022年6月に13本確認できた苗が、同年8月には苗が2本となり、その後もほとんど生育が見られなかった場所です(みせん90号)。今回シカよけネットBを設置したところ2023年4月1日には、葉身長(株元から葉の先端までを計測した長さ)が1cm程度の苗が6株だったのが、6月24日には22株(最大葉身長29cm、全葉身長平均5.9cm)、9月16日には10株(最大葉身長59cm、各株の最大葉身長平均32.6cm、全葉身長平均29.7cm)になりました。その10株中4株が分げつ(注1)し(最大分げつ数5)、1株の茎数が増えて旺盛な生育を示していました(表1、2、写真4)。このことから種子から発芽した苗は、生育途中でシカ等による食害により枯死しま

すが、シカよけネットで保護することにより、成長することが示されました。

この時期に開花する植物は少なく、カンコノキ、ハマゴウが目立つぐらいで、海岸のイワタイゲキも地上部は枯れて休眠していました。

注1：分けつとは、「イネ科、カヤツリグサ科などの植物の根元付近から新芽が伸びて株分かれます事」



写真1. ネットA 移植した苗が水没し、成長せず枯死したもよう(撮影 2023.9.16)



写真2. ネットB内の親株の元に発芽した実生の生育状況(撮影 2023. 6. 24)



写真3. ネットB内の苗の生育状況(撮影 2023. 9. 16) 写真2の約3か月後の状態。株が大きくなっている。



写真4. 写真3の株元の拡大。分けつしている。(撮影 2023.9.16)

表1.シカよけネット内の実生の生育調査結果

	葉身長(cm)	株数
	29	1
	27	2
	5	7
	1	12
合計		22

全葉身長平均 5.9cm(2023.6.24)調査

表2. シカよけネット内の実生の生育調査結果

株No.	分けつ数 (親株を含む)	葉身長(cm)				
1	1	15				
2	2	34	3			
3	1	24				
4	5	59	46	34	31	10
5	3	38	20	12		
6	1	30				
7	4	56	42	36	33	
8	1	30				
9	1	30				
10	1	10				

株の最大葉身長平均 32.6cm

全葉身長平均 29.7cm

株Noは集団の左の株から1番とした。
(2023.9.16)調査

【野鳥観察】 元広 修爾

調査班：大西 穂井田 二神 元広

本日は4名で、入浜池周辺の林の中、やや開けた広場、海辺の3地点で調査を行いました。

本日の調査のハイライトは、メジロとの出会いです。 昨年の同時期には、6羽を観察できたのですが、今回は30羽に出会うことができました。林の中にいる群れから

次々に飛び出しては別の林の中へ入っていく様子が見られました。私は一羽一羽の可愛らしさに見惚れているうちにシャッターチャンス逃してしまいました。

大西会員からは、「南に帰っていく夏鳥の幼鳥が見られると思ったが、出会えなかったので残念です。」というコメントがありました。

穂井田会員からは、「統計的に確かめているわけではないが、野鳥の数が減っているように思う。」というコメントがありました。

全体としては、下表のとおり 14 種の野鳥たちに出会うことができました。昨年の同時期の調査では 24 種の野鳥に出会えたので、通り野鳥の数が減っているように思われました。

入浜 野鳥定点調査

2023年9月16日 晴れ 9:30~11:30

種名	数	種名	数
コサギ	7	メジロ	30
ミサゴ	1	エナガ	5
トビ	3	セグロセキレイ	2
アオゲラ	4	ハクセキレイ	2
コゲラ	2	キジバト	6
ハシボソガラス	3	ヒヨドリ	2
ヤマガラ	2		
シジュウカラ	4		
			計 14 種

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥
------	----	----	----

季節区分は『ひろしま野鳥図鑑』（2002年）日本野鳥の会広島県支部（編）中国新聞社刊）による。



2023.9.16

メジロ（入浜池、撮影：穂井田会員）

【昆虫観察】 小川会員

ヒトモトスキ調査を手伝いながら、池と周囲の開けた場所で見たものを記録しました。

（他会員報告分を含む。※は写真番号）

シオカラトンボ(※1)、オオシオカラトンボ、オニヤンマ、アオスジアゲハ、ナガサキアゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハ、アメンボ、メダカ、魚(15 cm前後の1匹が池中央で跳ねる)、ニホンジカ(2,3頭のみ)、イノシシ足跡(※2)、タヌキため糞(※3)

帰路、右手に包ヶ浦を望む下り坂で、車道から左手の藪へと逃げ込むニホンザルの群(4、5頭。小ザル含む)を目撃しました。



※1 シオカラトンボの交尾(左がメス)



※2 イノシシの足跡。
外向き気味の副蹄がくっきり。



※3 タヌキのため糞。池の東側の樹林際にある。糞の塊が二つあった。

PV会員交流会

日時：9月9日(土) 8:00~17:00

天候：晴れ～曇り

行事推進委員：二神 舂田

参加者：麻生 岩崎 大西 北野 河野 小林(み)

佐藤 末原 中道 穂井田 増田 舂田

村上(光) 森 横路 以上 15 名

コロナ禍の自粛もあり、3年越しの念願であった庄原交流研修会でした。

午前8時に宮島口を出発。バスは山陽道～広島道～尾道・松江道と高速道を快適に走り高野SAで休憩、高野インターから国道432号線を比和町へ向かいました。

車中では各自に配られた「比和町散策ガイドマップ」を手に、向かう比和の歴史と伝統文化に思いを馳せました。

比和町を流れる西城川は“霊域“と言われる比婆山や吾妻山に源を発し、三次市で他の河川と合流し江の川となり、山陰の出雲地方へと流れています。付近では昔から行われた砂鉄製鉄の“タタラ”や“カンナ流し”の地形も見られます。神話と歴史を秘めた里山の風景が車窓に広がっていました。

10時10分、庄原市比和自治振興センターに到着。博物館の建物は「比和自然科学博物館本館（通称「モグラ博物館」）」と「地学分館（クジラ博物館）」に分かれています。



進藤館長から博物館の概要や活動内容と、ボランティアスタッフ（「インストラクター」と呼んでいる）の活動についての説明を受けました。

今日は原田インストラクターの説明で館内を見学しました。

館内は比和町の主産業である農業に関する古い農作業道具や生活用品の展示から始まる。農山村での人々の暮らし、それを取り巻く中国山地の自然。そこに生息する植物や昆虫、鳥類、小動物。主に中国地方に生息するものを中心に収集してありますが、「蝶類」は広島県内のほぼ全種類だそうです。ここに展示されている鳥類、小動物は全て剥製にされた物で、実物と見紛うその姿が中国山地の自然を語りかけて来ます。

「モグラ」の展示コーナー。

モグラは土中に穴をあける。水田の水が漏れたり、野ネズミの棲家となるので農作物に被害が生じ、農家にとっては困り者だ。そのモグラを研究対象とした博物館は珍しいと思います。

全世界のモグラの種類は約200種。日本には6種類が生息しており、その内の4種類が剥製にして展示されています。

その生息地の分布は「ヒミズモグラ」「ミズラモグラ」（日本全域に分布）、「アズマモグラ」（東日本に分布）、「コウベモグラ」（西日本に分布）とされています。

ネズミに似ているが尾が短い。私たちが身近に見るのは「コウベモグラ」である。短い手足と柔らかい毛並みの愛くるしい姿である。



別棟の「地学分館」（通称クジラ博物館）へ向かいます。

先ず迎えてくれたのは「ショウバラクジラ」を再現した模型とその化石。庄原市一帯から発掘されたヒゲクジラ類の骨格の化石か

ら再現されたものだ。中国山地で出会うクジラに驚きました。

化石展示室に入ると「ショウバラクジラ」と「ヤマオカクジラ」の骨格の化石が3体展示されています。



「ショウバラクジラ」は比和町から程近い庄原市川手町の西城川の河原から採掘された化石です。1600 万年前の新生代第三紀中新世の砂岩の地層から発掘されたもので、その他にアンモナイト（オウムガイの化石）やカキのほか二枚貝など多くの化石が展示されています。この地が海の底であったことを考えると地球の 46 億年の歴史の雄大さを感じ取ることが出来ます。

岩石と鉱物の展示コーナーでは、比和町の砂鉄製鉄（タタラ）の歴史の説明を受けました。この地方の土質は黒雲母花崗岩の風化による“マサ土”で、砂鉄を多く含んでいます。盛んに行われた“タタラ”や“カンナ流し”で草原化した山々では牛の放牧が行われ、現在の「比婆牛」の生産につながっている。

岩石の展示物コーナーでは、「孔雀石」や「水晶」や「黄鉄鉱」など多くの美しい岩石が目を楽しませてくれます。小学生の体験学習などでも好評のようです。

12 時に、比和町の自然と悠久の歴史に思いを寄せた比和自然科学博物館を後にしました。

昼食では「比婆牛」の牛丼と郷土料理の「ワニの刺身」を歓談の内に美味しく食べました。

13 時に「ショウバラクジラ」の化石の発見地の西城川の現地へ向かいました。

「庄原化石集談会」が発掘作業の基地になっています。木工会社の一角です。発掘作業

を行っているボランティアグループは約 36 名とのことです。大澤事務局長から日頃の活動や発掘作業の方法などの説明を受けました。



ショウバラクジラの化石の発掘や洗浄作業は今も続いています。細心の注意と根気が必要な作業です。資料室に展示された多くの発掘物を前に、「同類の生物の化石の発掘によってその生物の進化の過程が分かり、周りから発掘される岩石や他の生物によってその時代の環境が分かる」との説明を興味深く聞きました。

いよいよボランティアの木吉さんの案内で、実際に河原での発掘体験に向かいました。川幅 30~40m の川が大きく曲がった河川敷が現場です。



川床に露出している太古の地層。ハンマーとタガネを手に三々五々と思い思いの場所に散らばって掘り始めました。掘り起こした跡や地層の割れ目などボランティアの助言を参考にハンマーを振ります。「有ったー！」の声に腕に力がこもります。



現れた化石の一部の周りを細かく掘り進める姿。大きく割り取った岩石の面に二枚貝の化石を見つけた人。秋晴れの日差しの中、約1時間の作業で巻貝（タマガイなど3個）、二枚貝（オキシジミなど9個）、カニ、甲殻類、木の実、樹木の一部の化石などを掘り当てて発掘体験を終わりました。

川岸に咲く赤い彼岸花、黄色く実った近くの稲田で続く刈り取り作業の穏やかな風景。悠久の時間の中で、この風景の痕跡が後世にどのように残って行くのでしょうか。

15時30分に帰途に着きました。



(文：横路 写真：河野)

和木町放課後子ども教室 「わきあいキッズ」

日時：10月7日（土）10:00～15:00

天候：晴れ

場所 大元公園など

行事推進委員：小川 金山 北野 山本（昌）

参加者：岩崎 大西 小川 金山 北野 河野
小林（颯）小林（み）末原 二神 穂井田
舛田 山本（昌）横路、呼坂 以上15人

参加者 「わきあいキッズ」

小学生1年～5年生 20名、保護者8人
教育活動サポーター6人、事務局3人
計37人

和木町「わきあいキッズ」の自然体験活動に、宮島パークボランティアとして協力しました。

10時に栈橋 清盛像前に集合。全員で歩いて大元公園休憩所へ。

たくさんの観光客でにぎわう秋の宮島で、道を歩くのも大変なほどでしたが、大元公園まで来るといつもの静けさです。

10:30～宮島のシカについて学習。

小川会員から資料に基づいてお話、その後大西会員が紙芝居で紹介。

その後外へ出て、大元公園に10頭余りいたオス、メス、小シカたちを驚かさないう遠くから見ながら、小川会員からシカの群れや暮らし方について、お話がありました。

シカのためにも人間のためにも「エサをやらない、ゴミを出さない」ことが大切なことが、説明されました。

宮島ではよく見かけるシカについて改めて見直すことができ、子どもからは「エサをやってはいけないことを知った。」、大人からも「紙芝居がとてもよくわかった。」との感想をいただきました。

また持って行ったシカの角を、子どもたちは何度も触ったりしていました。



紙芝居「宮島のシカ」



シカの観察

午後は金山会員、北野会員、呼坂会員によるネイチャーゲーム。

屋内でゲームの説明後、外へ出ました。

13:00～「カモフラージュ」ゲーム開始。大元公園の茂みに隠された「人工物」を、いかにたくさん見つけられるか。子どもも大人も、何回もコースを歩いてチャレンジしていました。



ネイチャーゲーム「カモフラージュ」

13:30～「私は誰でしょう」ゲーム。休憩所前の広場で、自分の背中に貼られた「絵」が何か、自分が質問し、その答えを聞いて、自分で当てます。植物などの特徴を思い出しながら、ほかの人と仲良くなることができます。子どもも大人も、一生懸命チャレンジしていました。



ネイチャーゲーム「私は誰でしょう」

その後、全員で栈橋まで歩き、15時の解散となりました。

宮島パークボランティアとして、主催事業以外での「子どもたちの体験活動」は初めてのとのこと。

子どもたちも保護者の方も、野生のシカを観察したり、ネイチャーゲームを楽しんだり、

昼休憩時には浜辺で貝を拾ったりと、いつもとは違う宮島の自然に触れ学び、のびのびと楽しんでもらえたと感じました。



写真 全員集合

(文：二神 写真：河野)

紅葉谷公園補修・清掃作業

日時：10月19日（木）9:30~13:00

天候：快晴

行事推進委員：大林 三戸

参加者：岩崎 大林 恩田 河野 小林(副) 末原
穂井田 増田 三戸 森 吉賀 以上 11名

作業当日は快晴に恵まれ、気温は少し暑いくらいでした。

私は宮島訪問税導入後初めてのボランティア参加。集合時間午前9時の棧橋前広場は小・中・高校生の修学旅行か遠足の人達と

外国人観光客がいっぱいで驚きました。それから、宮島初のコンビニがシックな色合いで正面に建っていて、宮島の街並みに溶け込んでいました。

作業現場の紅葉谷公園までは徒歩で行き、宮島さくら・もみじの会の方々と合流して、宮島さくら・もみじの会会長と宮島地区パークボランティアの会会長から挨拶と作業指示をいただき、いつものように集合写真を撮ってから作業を開始しました。

作業は宮島さくら・もみじの会のみなさんとの協働作業で行い、宮島さくら・もみじの

会のみなさんは樹木の周りに真砂土等で土壌改良を施され、枯れ枝の撤去をされました。一方、我々の会は枯れ枝の撤去とともに、公園の側溝に溜まった土砂を取り除き、その土砂で道の窪地を整地しました。側溝には石あり枯れ枝あり、根も張っていて困難な作業になりました。

側溝の清掃をしている時、観光客の方から、「ボランティアの人ですか？あなたたちのおかげでいつも気持ちよく散策できます。ありがとうございます。」と声をかけていただき、少し嬉しくなりました。

もうすぐ多くの方が紅葉狩りに来られますが、公園が綺麗になってよかったです。

作業は11時過ぎには無事終了して山村茶屋前で解散しました。

昨年、私は紅葉谷清掃作業終了後、弥山ソロ登山しましたが、今回のボランティアは久しぶりで、作業に疲れ果て登山する元気はありませんでした。



(文：三戸 写真：河野)

スカイ歩道整備・清掃作業

日時：10月28日(土) 9:00~11:00

天候：晴れ

場所：紅葉谷・包ヶ浦自然歩道（スカイ歩道）の紅葉谷入口から博打尾手前

行事推進委員：佐藤 兎谷

参加者：岩崎 上杉(裕) 河野 小林(勗) 末原
兎谷 長村 二神 穂井田 松尾 三戸
村上(慎) 森 以上 13 名

環境省：内山自然保護官 大高下 AR

新入会員研修生：4名

気持ちの良い晴天に恵まれ、大勢の観光客の中、紅葉谷へ向かいました。

スカイ歩道は、紅葉谷ロープウェー乗場手前を左に曲がり、すぐ右に登って、博打尾を通る自然歩道です。（私は集合に遅れ道に迷って手前の岩惣で左折したため、バス道を右往左往してしまいました。）

このルートは、紅葉谷ルートほどポピュラーではないものの案内板も設置されており、登山客もよく利用する自然歩道ですが、側溝には枯葉や枝、土砂がたまり、埋まったり詰まったりしています。それらを取り除くのがメインの作業です。約 200m を、上から 3 班に分かれて作業しました。

やはり一年分の枯葉など結構な量でしたが、今年は台風や雨が殆ど無かったせいか、例年に比べると少ないとのこと。終わった後は見違えるほどさっぱりした自然道になりました。これで雨水もスムーズに流れ、土砂崩れも減り、登山者も気持ち良く歩けることと思います。

話は変わりますが、その後通った登山者が、大きな角の雄シカに会い、他県での事故を思い出して、勇気をもって引き返したとのこと。観光地宮島とはいえ、やはり野生動物の住む所、皆が気をつけないといけないと思いました。

今日は参加者が多く、新入会員研修生の方もシャベルをふるって大活躍され、皆の協力のおかげで予定より 1 時間早く 11 時に無事終了しました。



上段作業前



上段作業後



中段作業前



作業中



中段作業後



作業中



下段作業前



下段作業後



(文 : 二神 写真 : 河野 末原)

*** 投稿 ***

① 廿日市環境フェスタ2023”

日時：10月22日（日）13：20～14：10
 場 所：グローバルリゾート総合スポーツセンターサンチェリー
 講演者：環境省広島事務所 大高下 AR
 環境講座：瀬戸内海国立公園“宮島”のいま

登壇者：環境省広島事務所 大高下 AR、
 広島よしもと芸人「メンバー（山口、潮）」

私たちがいつもサポートして下さる大高下 AR が、イベントにて講演されたので、ご報告します。

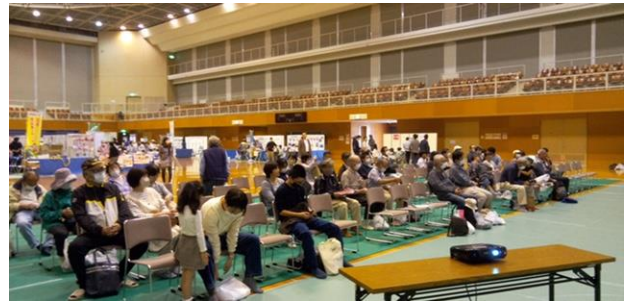
会場では、1日中、環境に関して、様々な展示や催しが行われ、環境講座は、直前に漫才で会場を沸かせた芸人さんコンビと、大高下さんが対談するような形式でした。

内容は、環境省の業務や国立公園についての基本事項に始まり、宮島の優れた自然、海ごみ等についての現状と、今後、私たちひとり一人が、求められる取組みについて等でした。

大高下 AR が、多くのイラストや写真を含む素敵なスライドを使い、多岐にわたる環境課題の重要な点を、芸人さんとテンポよく、お話しされました。

会場では、大人のみならず、今年のこどもパークレンジャーに参加した我が子（11歳）をはじめ、老若男女を問わず、楽しくわかりやすい素晴らしい内容で、立席する人も見当たりませんでした。

末原会長以下、参加した当会有志は、「このままで十分すぎる内容だし、ぜひ今度、大高下 AR に、宮島 PV のみんなに講演してもらいたい。」との意見で一致した事を、特に強調しておきます。



（ 文：松尾 写真：岩崎 ）

② 公開講座 聴講記

「ミクロの世界からみた宮島」

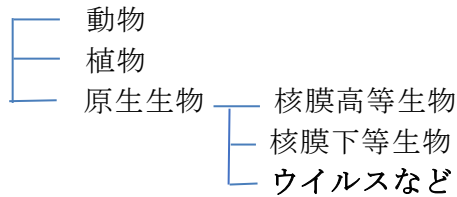
9月16日午後に県立広島大学宮島学センター公開講座「ミクロの世界からみた宮島」（講師 県立広島大学学長 森永力）が etto 交流館で開講されたので、聴きに行きました。この日は午前中に入浜維持管理作業があり、タイミングの良い機会となりました。

微生物の世界のど素人なので、わからない部分が多かったのですが、垣間見た面白かった部分だけを記載します。生物の世界に通じておられる方には目新しい話ではありませんので、ご容赦を。

1. 生物進化の歴史（地球カレンダー）

46億年前の地球の誕生から現在までを12ヶ月として表現して歴史が語られました。原始生命体が海の底で生まれたのが3月（35億年前）、原核生物のシアノバクテリア（ラン藻類）が生まれたのが5月（25億年前）。この生物は二酸化炭素を吸収して酸素を排出するので大気中の酸素濃度が増えて、活性酸素でDNAが壊されるため、核膜を持つ真核生物が8月に生まれてきた。9月には植物と動物の分化が起こり、12月12日に哺乳類が出現、12月13日に恐竜時代が始まり、12月26日に恐竜時代が終わる。12月31日10時40分に類人猿出現、15時39分に直立二足歩行開始、23時37分にホモサピエンス誕生、23時58分にキリスト降誕。

2. 生物の分類



原生生物の話が色々ありましたが、スライドの説明のみで配布資料には入っておらず、ほとんど理解不能でした。ただ、窒素酸化物 (NO_x) や硫黄酸化物 (SO_x) を食べてエネルギーにする生物がいることがわかりました。

3. 宮島のシカにいる糞性菌

シカの糞だけで生きる菌があり、この菌の胞子のついた草をシカが食べると胆汁で胞子の膜がやられて糞と共に排出され、糞を土壌として成長する。菌は白いキノコ状で糞と同じくらいの大きさになり、先端から胞子が遠くは 10m くらいの距離まで放出されて草などに付着する。この菌は土では成長せず、菌のついた草をシカが食べることで成長のサイクルを繰り返す。食べる物の違いか、奈良のシカや安佐動物園の動物のフンからは糞から成長する菌は見つかっていない。

宮島のシカの糞を 10 粒ほど持ち帰り、しばらく水に浸して、濡れた布、又は、濡れたティッシュペーパーの上に置いておくと成長が見られるとの事でした。

学校の先生や地元の年配の方が多数聴講に来ておられましたが、私には難度の高い講座でした。県立広島大学宮島学センターは宮島に関して幅広く色々やられているようで、またの聴講の機会を楽しみにしたいと思います。

(文： 森会員)

③ 俳句 大林会員

色変へぬ松美しき嚴島
 吹き抜けの千畳閣に舞ふ紅葉
 回廊に迫る初潮能舞台
 金秋や安芸の要は嚴島
 来客を鹿の出迎ふ神の島
 秋晴れの海上半里神の島

◇ 編集後記 ◇

庄原の PV 交流会、1600 万年前の地層は河原の平坦な岩場。ひび割れを見つけ、タガネを当てハンマーでたたくこと数十回。パカッと割れて二枚貝や巻貝とご対面。

地球が太陽の周りを 80 回もすると私の寿命。それが私たちに出会うまで 1600 万回ですから感激です。(麻生)

瀬戸内海国立公園
 宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
 環境事務所 広島事務所
 (〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号
 広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455